

Vol. 167

2017.11.7

理事長トーク Top Interview

湘南慶育病院が開院いたしました

医療法人社団 健育会 理事長 竹川節男



2017年11月6日（月）、湘南慶育病院がよいよ開院し、診療を開始いたしました。
健育会グループとしては9ヵ所目の病院となります。



この病院の最大の特徴は、日本で初めて大学と密に連携する民間病院ということです。私が慶應義塾大学の医局に在籍していたご縁から、神奈川県藤沢市の掲げる「健康と文化の森」地区内における病院計画のお話をいただき、病院開設の検討を進めてきました。隣接する慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス、信濃町の慶應義塾大学医学部、そして様々な企業と共同し、健康・高齢社会抗加齢研究／医療ビッグデータ研究／ヘルスイノベーション研究、スマートリハ研究など、最先端のITを駆使した健康長寿社会の延伸に向けた取り組みを進め、医療の世界における産学官連携のパイオニアになっていければと考えています。

病院概要

病院名	湘南慶育病院
病院所在地	〒252-0816 神奈川県藤沢市遠藤 4360
設立	2017年（平成29年）11月
病床数	230床
診療科	総合診療内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、腎臓・内分泌・代謝内科、神経内科、外科、消化器外科、整形外科、眼科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科
敷地・建物概要	敷地面積：30,579.20m ² 建築面積：3,859.17m ² 延床面積：15,412.60m ²
運営	医療法人社団 健育会
理事長	竹川 節男
院長	松本 純夫

特徴

1. 藤沢市マスタープラン「健康と文化の森」構想の中核施設となる病院
2. 慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパスとの連携
（スマートリハ室の開発、抗加齢医学・未病研究、ライフクラウド研究等）
3. ITを活用した見守りサービス等、地域住民の健康を守る先駆的な取り組み

この湘南慶育病院は、今まで健育会グループで培ってきたリハビリテーションの経験、そして二次救急の経験を存分に活かすことができる病院となります。さらに高度な医療も提供できる病院に成長し、藤沢市の皆さんの健康な暮らしを実現していくとともに、藤沢市から「日本の豊かな健康長寿社会づくり」に貢献していきたいと考えています。



今回の理事長トークでは、11月4日（土）に行われた開院式／開院記念パーティの様子、そして開院式に先立って10月22日（日）に行われた、一般向け開院記念シンポジウム／内覧会の様子をまとめました。

湘南慶育病院 開院式



2017年11月4日（土）秋晴れの爽やかな青空の下、慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス・慶應義塾大学医学部の関係者、藤沢市長、藤沢市医師会長、藤沢地域の自治体・医療関係者、建築でお世話になった皆様など約200名の方々にお集まり頂き開院式を行いました。まず冒頭に私から以下のようなご挨拶をしました。



本日は連休の中日にもかかわらず、皆様、湘南慶育病院の開院式にお越し下さいましてありがとうございます。

湘南慶育病院は「外来診療」「一般急性期病棟」「回復期リハビリテーション病棟」「慢性期療養病棟」といった診療の機能とは別に、いくつかの特長がございます。院内に研究所を設け、慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス（SFC）との密な連携のもと、抗加齢医学などの研究を行います。また、看護医療学部の学生実習を受け入れるための施設も用意いたしました。リハビリテーションにおいては、慶應義塾大学医学部リハビリテーション科教室 里宇教授の御指導のもと、先駆的なスマートリハ室を立ち上げております。

そして、ソーシャルネットワークサービスを活用した在宅医療支援システムを構築し、地域の方々の健康を守ってまいります。

この湘南慶育病院は構想から本日の開院まで約6年の年月を費やしました。その間に多くの方々のご協力をいただき、無事開院式を迎えられましたことを、心より感謝申し上げます。そして職員一同力を合わせ、またグループの総力を挙げて、多くの方々の期待に応えられる「心豊かな病院」づくりを目指して頑張っておりますので、今後とも宜しくお願い致します。



また、5名の来賓の方々から、祝辞をいただきました。

藤沢市長 鈴木 恒夫 様 ご挨拶（抜粋）



藤沢市遠藤の地に、慶應義塾大学と連携した湘南慶育病院が開院するにあたりまして、医療法人社団健育会、並びに慶應義塾大学関係者の皆様に心から感謝をいたします。

この地域のことを藤沢市西北部と呼んでおりますが、この地は以前は農業や植木を中心とする農業地帯でございました。そのような地域を都市拠点の一つである「健康と文化の森地区」とし、文化の森地区には1990年に「慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス」が開設され、2001年には健康の森地区に「看護医療学部」が開設されました。

そのような中で湘南慶育病院が開業され、「健康と文化の森地区」の中核を担っていただけていると考えています。ぜひ、市政と共に藤沢市の市民の健康寿命の延ばし、健康長寿神奈川県一、そして日本一を実現する取り組みを実施していければと考えています。よろしくお願いいたします。

神奈川県副知事 首藤 健治 様 ご挨拶（抜粋）



湘南慶育病院におかれましては、抗加齢医学・未病研究やライフクラウド研究など慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパスとの連携のもと、ITを活用した見守りサービスなど地域住民の健康を守る先進的な取り組みをされると伺っています。ご存知のように、昨今の医療技術や周辺技術の進化、あるいは医療関連ニーズの変化に伴いまして、医療健康サービスの提供というのはドラスティックな変革期を迎えようとしているところです。そのような中で湘南慶育病院が開業するという事は、私共といたしましても非常に心強く感じており、県としても可能な限りの協力をしていきたいと考えています。

また神奈川県においては、黒岩県政のもと、未病というコンセプトを打ち出して社会改革に努めているところです。湘南慶育病院におかれましては、未病抗加齢センターを設置するなど、神奈川県の取り組み、あるいは世の中のトレンドを察知して動こうとされていることに対しては改めて敬意を評したいと思っております。湘南慶育病院が地域に根ざした病院として良質な医療の提供にご尽力いただくとともに、神奈川県の施策により一層のご協力を賜りますことを心よりお願い申し上げます。



藤沢市医師会長 鈴木 紳一郎 様 ご挨拶（抜粋）



本日はおめでとうございます。私は幼少期より藤沢市に住んでおりまして、私が医師になって少し経った頃に「健康と文化の森構想」ができたことをつい昨日のように覚えております。それから約30年経って、ここに中核拠点施設となる病院が開院を迎えますことを大変感激しております。これで、街づくりの計画も前進すると思いき、地域の方々の活性化も大いにされるのではないかと思います。

藤沢市は都市マスタープランにおいて市内にある6つの場所を都市拠点として位置付けていますが、中でも「健康と文化の森地区」は、最も夢のある都市づくりが行える場所と認識されています。湘南慶育病院におかれましては、慶應義塾大学との連携のもと、未病、抗加齢、スマートリハなどの取り組みを進め、藤沢市民の皆様が「一生ここに住みたい」と言っていただけるようなまちづくりの一面を担っていただければと思います。また、医師会においてもしっかりと連携をとらせていただき、地域のため、市民のため、県民のためになるような素晴らしい医療機関をつくって頂ければと願っております。



学校法人慶應義塾 常任理事 國領 二郎 様 ご挨拶（抜粋）



慶應義塾を代表いたしまして、湘南慶育病院の開院をお祝い申し上げたいと思います。私としてもこの病院の開設に向けてこれまで深く関わってまいりましたので、このように大勢の方と一緒に祝いできること、感無量でございます。

他大学で郊外型のキャンパスが必ずしも大成功というわけではない中で、慶應義塾がこの地で拡大してこれたのは、ひとえに地元の皆さまの温かいご支援のおかげであり、今回の病院開設につきましても、また地元の皆さま方の温かい支援のもとに実現できました。

SFC開設当初から病院という話があった中で、その実現に向けて藤沢市と話し合いを進めてまいりました。形といたしましては、藤沢市と慶應義塾が連携協定を結び、健育会と慶應義塾が豊かな長寿社会づくりに資する研究・臨床応用・教育を遂行することを目的とした「研究・教育に関する協定」を結んでおります。このように病院と慶應義塾の連携を明確にした上で、今回の病院の開設につながってまいりました。

先ほど鈴木市長より健康長寿日本一というお話がありましたが、住民の皆さまにとって藤沢の街が住みやすく、また生きがいを見出せるような街になることが重要だと考えております。慶應義塾が持っております様々な技術を活用し、また自治体には制度設計なども行なっていただきながら、今回できるこの大変立派な病院を核とし、日本全体の模範となるような街づくりを行なっていければと考えております。



慶應義塾大学医学部長 天谷 雅行 様 ご挨拶（抜粋）



藤沢市に、SFCの隣に、そして「健康と文化の森」の中に病院を建設することは多くの関係者の悲願でありました。そして、長い準備期間、周到な計画、そして安全な工事など全てが順調に進み今日という日を迎えられました。

2017年は慶應義塾大学医学部にとっても特別な年であります。1917年に自然科学に注目し、その重要性を認識していた福沢諭吉先生の遺志を継ぎ、慶應義塾60周年を記して医学部が開設されました。その1917年から本年が100年目であり、医学部は開設100年を迎えました。この同じ年に湘南慶育病院がSFCの隣に開院するのは何か強い結びつきを感じざるを得ません。

SFCは慶應義塾の中でも独特の雰囲気を持つキャンパスです。自由、多様性、最先端、国際的というキーワードが示すものを元に学部や大学院が配置されています。そして湘南慶育病院は単なる地域病院ではなく、看護医療学部との連携により看護実習を提供し、また環境情報学部政策メディア研究科と連携し、現在の単元的診察を超えた遠隔医療の導入など時代を先導するスマートホスピタルと発展していくことが求められていますし、抗加齢、未病、そしてスマートリハなど本当に先駆的な施設が配置されています。また、医師の90%以上が慶應義塾大学三四会関係者であり医学部との強い連携も行われています。現在新しい医療を展開する上で診療のみならず、臨床研究、個人情報の取り扱いなどを行い、技術面においても安心・安全が社会から求められております。このような状況の中で、医学部としてお手伝いできることもあるのではないかと考えております。

今後、湘南慶育病院が藤沢の地から、スマートホスピタルの模範的・先導的なモデルとして、日本にそして世界に情報を発信し続けられるよう、ますます発展されることを心より祈念しております。

その後、院長挨拶として、湘南慶育病院 院長 松本 純夫先生より、湘南慶育病院の診療内容についてご説明させていただきました。

また、無事工事を施工いただいた株式会社伊藤喜三郎建築研究所様と前田建設工業株式会社様に、開院式の間を借りて感謝状をお送りさせていただきました。

本当に多くの皆様のご尽力で、開院式を迎えることができました。

お集まりいただいた多くの皆様、そして藤沢市にお住いの地域の皆様のご期待に応えられるような病院運営を行なってまいります。



湘南慶育病院 開院記念パーティ



開院式の後、開院記念パーティが始まる前に、ご列席いただいた皆さまに、湘南慶育病院の院内をご案内いたしました。

リハビリテーション室においては、「ロボウォーク・エキスパンダー」「レッドコード」「HURスマートタッチ」「コグニバイク」「ハイブリット・電気刺激装具システム」や、スマートリハ室の「BMI(ビーエムアイ: Brain Machine Interface)療法」「自己運動錯覚(KINVIS)療法」など、多くの機器について、当院のリハビリテーション職員が実演も含めて皆様にご紹介しました。多くの方からたくさんのご質問をいただき、興味を持ってご覧いただけました。



その他、ナースステーションや一般病室、地域のニーズに応じて設置したSARS、インフルエンザ等感染症に対応する陰圧個室などもご覧いただきました。

また2階においては、来院患者の自覚症状や生活歴、既往歴などの問診情報を診察前にタブレット端末から入力して、患者から適切に情報収集するNECの「クラウド型問診サービス」のご案内も行いました。



開院記念パーティの乾杯のご発声は、慶應義塾大学環境情報学部教授、大学院政策・メディア研究科委員長 村井 純先生にいただきました。

乾杯のご挨拶（抜粋）

慶應義塾大学環境情報学部教授、大学院政策・メディア研究科委員長
村井 純先生



慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス（SFC）ができたのは1990年ですが、私はその開設段階から関わってまいりました。その頃より、最寄駅（湘南台）からタクシーに乗りますと「病院はいつできるんですか？」と運転手さんによく聞かれたものでした。このように地元の方々の悲願であった湘南慶育病院が、本日、健育会の竹川理事長をはじめたくさんの方のご努力で開院式を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。SFCの開設から、27年目で遂に今日を迎えられたということは本当に感慨深いことです。

これから新病院がスタートするわけですが、開院へ向けてのご努力もさることながら、これから様々なことで皆さんと支え合っていかなければいけないことがたくさんあると思います。本日の開院式で話された様々なことをどんどん実現し、病院の役割を果たしていられることを期待しています。皆さんの希望と夢を持って出発する湘南慶育病院の輝かしい未来への発展をお祈り申し上げます。



パーティの終わりには、湘南慶育病院で、それぞれの部署を牽引する立場となる責任者の職員を皆様に紹介しました。



最後には副院長を務める 堀江 義則先生から、お礼のご挨拶をしました。

お礼のご挨拶（抜粋）
湘南慶育病院 副院長 堀江 義則 先生



本日は連休中にも関わらず湘南慶育病院開院記念パーティにご出席いただきありがとうございました。今日を迎えられたのも、神奈川県・藤沢市といった行政はもちろんのこと、慶應義塾大学、そしてさらには関連病院の先生方、またその他の本日で臨席の方々のお力添えがあってこそのことと思っております。

開院当初は、全230床のうち130床からの出発となりますが、竹川理事長を先頭といたしまして抱いている夢の大きさと心の熱さはどの病院にも負けないと、スタッフ一同自負しております。今後ともご支援ご指導のほどお願い申し上げますと共に、ご臨席の方々のご健勝とますますのご活躍をお祈り申し上げまして、私のお礼の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

ご来場いただいた皆様よりたくさんの温かいお祝いの言葉を頂き、開院式並びに開院記念パーティを盛大に開催することができました。参加した職員も、大きな使命感を感じたのではないかと思います。開院後もその気持ちを忘れることなく、地元地域の方々そして多くの皆さまの期待に応えることができる湘南慶育病院となるよう、職員一同力を合わせ、またグループ一丸となって「心豊かな病院」づくりを進めてまいりたいと思います。



湘南慶育病院 開院記念 健康と文化の森「未来健康まちづくり」シンポジウム



10月22日（日）開院式に先立ち開院を記念する「健康と文化の森「未来健康まちづくり」シンポジウム」を慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパスθ(シータ)館にて行いました。シンポジウムは、広く市民の皆様と共に、湘南慶育病院近隣地域における「未来健康まちづくり」について語り合うことを目的に開催されました。

当日は台風21号が近づく中、時折強い雨と風が吹き付ける天候となりましたが、そのような荒天の中、300名以上の大勢の参加者の方にお集まりいただき、この病院に対する関心の高さを感じました。

まず初めに、藤沢市長 鈴木 恒夫氏より、ご挨拶をいただきました。

藤沢市長 鈴木 恒夫 氏 ご挨拶（抜粋）



本日台風の中、これだけたくさんの方がお集まりになっているということは、市民の皆様の湘南慶育病院に対する期待の高さと熱意を感じています。

「健康と文化の森」地区は、藤沢市の都市拠点の一つです。豊かな自然環境はもとより、文化は「慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス（以下、SFC）」、健康は「慶應義塾大学看護学部」や周辺施設等の皆さん、そして今回晴れて開院を迎える「湘南慶育病院」と連携しながら、モデル地区を目指していきたいと考えています。

藤沢市は「元気ふじさわ健康プラン藤沢市健康増進計画」を立ち上げて健康寿命神奈川県一を目指して取り組みを進めています。藤沢市民の皆さんの健康への関心は高く、公園などでの体操にも多数参加いただいています。一方、神奈川県では「健康寿命日本一戦略会議」を立ち上げ、都道府県において健康寿命日本一を目指しています。その神奈川県の中で藤沢市が一番になれば、藤沢市が健康寿命日本一になることができると考えています。

藤沢市ではパートナーシップを大切にしています。これまでの既存のパートナーシップに加え、「湘南慶育病院」とも協力しながら健康に対して取り組み、「湘南の元気都市」を目指していきたいと考えています。

まず初めに、五児の母であり、産婦人科医であられる神奈川県 技幹、神奈川県立保健福祉大学 准教授 吉田 穂波先生からお話いただきました。

神奈川県 技幹、神奈川県立保健福祉大学 准教授
吉田 穂波 先生 ご講演（抜粋）



未病という言葉 皆さんお聞きになられたことがあると思います。今までは「健康」と「病気」の2つに分けてきましたが、その間を行ったり来たりできる部分が「未病」とされました。この「未病」という概念を持つことで、健康と病気を連続的に捉えることで、未病状態から病気にならないように自分でコントロールすることができるようになります。例えば、食、運動、社会参加です。これらをうまく使ってご自身の健康にいかに関与するかという「未病の取り組み」が進んでいます。



慶應義塾大学、そして湘南慶育病院は、未病センターやヘルスサイエンスラボでの未病の研究を行っていく計画があります。また、湘南慶育病院が予定している取り組みの中で、特に優れているのはICTシステム、医療の情報化だと感じています。ICTと聞いても、皆さんの中にはまだ抵抗がある方もいらっしゃるかもしれませんが、私はこれを非常に可能性のあるものだと考えています。

神奈川県では、皆様の安心や健康のために基盤を整備しているところです。そのような中、今この時代に湘南慶育病院という素晴らしい病院がこの地に開設されることを心よりお祝い申し上げます。

2番目に、日本におけるインターネット環境を作り上げた功績から「インターネットの父」と言われている慶應義塾大学環境情報学部教授、大学院政策・メディア研究科委員長 村井 純先生からお話をいただきました。

慶應義塾大学環境情報学部教授、大学院政策・メディア研究科委員長
村井 純 先生 ご講演（抜粋）



SFCの創設より、地域の皆様には大変お世話になっております。この度、湘南慶育病院が開院を迎えるということで、「健康と文化の森」が完成形に近づいてきたということで、大変嬉しく思っています。

神奈川県との連携で設置している「ME-BYOハウス・ラボ」は、家を健康管理の重要な拠点と位置づけて、「未病の改善」を目指して実証実験を行なっています。このME-BYOハウスは、病院の真向かいにありますので、共同して実験を行なっていければと考えています。またSFCは湘南慶育病院と連携し、ICTによる先進的な取り組みを行っていく予定です。

地域の皆さんに私たちの新しい試みに関心を持っていただき、ご意見ご指導をいただきながら、地域の発展と共に未来の創造を進めていければと考えています。

3番目に、専門は眼科でありながら、再生医療とアンチエイジング医学にも研究領域を広げておられる、慶應義塾大学医学部眼科教室教授 坪田 一男先生からお話をいただきました。

**慶應義塾大学医学部眼科教室教授
坪田 一男 先生 ご講演（抜粋）**



湘南慶育病院は、地域の皆さんにとってプラスになる、また皆さんの健康に役立つ新しい病院になろうとしています。皆さんにとって、病気になったら行くところが病院だと思えますが、そうではない病院です。皆さんが病気にならないための情報のソースの一つとして使っていたような病院づくりをしていきたいと考えています。湘南慶育病院では、私が担当する慶應義塾大学医学部 眼科のエースの先生お二人が眼科を担当します。先生方は眼科の新しい知見もしっかりと理解した診療をいたします。

光は見るためだけではなくて、いろいろな生物活動や健康に関係しています。今回のシンポジウムは「未来健康のまちづくり」というタイトルですが、街づくりを行っていく際にも、昼間は子ども達が安心して外で遊べるように、逆に夜はブルーライトに満ちすぎないように、光にもケアできる街づくりに病院も貢献できればと考えています。

4番目に、湘南慶育病院 初代院長となる松本純夫先生からお話をいただきました。

**湘南慶育病院院長・東京医療センター名誉院長
松本 純夫 先生 ご講演（抜粋）**



湘南慶育病院では、通常の診療に加え、最先端のリハビリを行う「スマートリハ」、認知症予防の「メモリクリニック」、SFCとの共同利用研究室である「ヘルスサイエンスラボ」、健康寿命百歳を実現するための「未病・抗加齢センター」などの取り組みを行っていく予定です。また、SFCは授業に初めてインターネットを活用したキャンパスですので、そのテクノロジーを使って地域住民の皆さんに寄与できればと考えています。

例えば遠隔在宅診療においては、近い将来インターネットを活用し、TVを中心とした医療サービスの提供を含む、自宅でも病院内と同等のサービスを受けられる「Hospital in the Home（ホスピタル イン ザ ホーム）」を実現したいと考えています。当面はその足がかりとして、完全非公開型 医療介護専用SNSを使って、患者さんご家族、そして医療関係者のコミュニケーションを円滑にする取り組みを行っていきます。このようにインターネットを活用し、患者さんと病院、医者との新しい関係を創っていきたくと考えています。

最後に私からは、健育会グループのご紹介とさらに以下のようなお話をしました。

医療法人社団健育会理事長、慶應義塾大学大学院特任教授
竹川 節男 理事長 講演（抜粋）



湘南慶育病院を作るにあたって、藤沢市からいただいた要望は「地域救急医療に貢献する病院」ということでした。また、神奈川県からは「慢性期医療や回復期リハビリテーション病棟を実施する病院」というご要望をいただきました。湘南慶育病院は、開院以降になりますが、二次救急に対応すべく準備を進めていますし、リハビリテーションにおいては開設当初より最先端の取り組みをこなっていく予定です。そういう意味で、どちらの期待にも応える形で病院を作りました。

そして、地域包括ケアの中でIoTを駆使し、湘南慶育病院が中心となりながら、地域の開業医の先生、介護施設等と行政が一体となって藤沢地域で暮らす方の健康を支援し、「寝たきりゼロを目指す」支援を確立していきたいと考えています。



また、SFCとの連携で、病院の中にヘルスサイエンスラボという研究室を設置します。病院からはデータやノウハウを提供し、一緒に研究を行っていく予定です。SFCは学生によるベンチャービジネスが盛んですが、ぜひ藤沢からの新しい抗加齢・健康のビジネスを発信していければと考えています。

そしてこの湘南慶育病院には「スマートリハ室」という最先端のリハビリテーションを行うことができる施設を整備をしました。充実したリハビリを行うことができますので、日本中から、ひょっとしたら世界から、スマートリハを受けに患者さんが集まってくるかもしれないと考えています。





最後になりますが、私のライフワークについてお話しします。日本は平均寿命が世界一ですが、現在は健康寿命と平均寿命の差が約10年あり、この10年間で多くの人が人間の尊厳が損なわれるような哀しい時間を過ごしています。私のライフワークは、この健康寿命と平均寿命の差を縮めていく取り組みを進めていくことです。そこで湘南慶育病院を通じて、そもそも皆さんが病気にならないような取り組みや、そして一度機能が損なわれた患者さんには、もう一度健康になっていただくためのリハビリテーションを展開し、地域との連携によって「寝たがり老人を作らない」、すなわち健康寿命を伸ばす取り組みを積極的に行ってまいりたいと考えています。そして結果として、この地域の健康寿命と平均寿命の差を全国平均の半分以上にしていきたいと思っています。

湘南慶育病院は「安心のまちづくりに貢献したい」と考えています。この病院があるから安心だと地域の方々から言われるような病院を目指します。ご支援のほど宜しく御願致します。



各立場からの素晴らしい内容のご講演をいただき、湘南慶育病院の使命の高さを改めて感じることができたシンポジウムとなりました。シンポジウムの最後には私から会場にお集まりの皆様へ、病院へのご理解とご支援をお願いしてシンポジウムは閉会いたしました。

湘南慶育病院 先行内観会



シンポジウムの後は、シンポジウムに参加者した方限定の湘南慶育病院 先行内観会を行いました。雨で足元の悪い中にもかかわらず、たくさんの参加者の方が、シンポジウム会場となった慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパスから病院に移動し、病院を見学していただきました。



参加者の皆さまは外来診療、検査室、病棟、リハビリテーション室、救急外来など、熱心にご覧いただき、「この地域に立派な病院ができて嬉しいです。でも、私自身はこの病院にお世話にならないように、健康でいたいと思います！」等の嬉しいお声も聞かれました。

台風の中、想像以上の人数の方々にお越しいただき、湘南慶育病院に対する地域の方々の期待の大きさを感じた1日となりました。